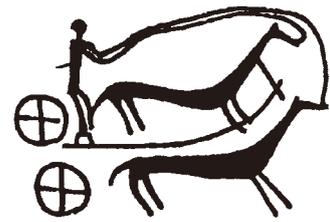


ニュースレター

Hokkaido University
Institute for the Advancement of Higher Education

北海道大学 高等教育推進機構
Newsletter No. 98



北海道大学卒業生調査 2013 を実施 (10 ページ)

CoSTEP の教育活動 (15 ページ)

アカデミック・サポートセンターの活動 (17 ページ)

(詳しい目次は裏表紙にあります)

巻頭言 FOREWORD

高等教育推進機構 3 研究部門を統合 — 流動的な活動体制に —

高等教育推進機構 高等教育研究部門 教授 細川 敏幸

これまでの活動

1995 年の高等教育機能開発総合センター設立と同時に、高等教育開発研究部と生涯学習計画研究部が発足しました。2000 年には、入学者選抜企画研究部が加わりました。これら 3 研究部門は高等教育に関連する幅広い分野の研究と実践を行ってきました。2010 年の高等教育推進機構の発足とともに名称が研究部から部門となりましたが、活動内容は同じです。

これまで高等教育開発研究部門は、全国に先駆け本格格的 FD (教員研修) や TA 研修の実施、コアカリキュラムの考え方とフィールド体験演習、芸術科目などの授業開発、e-ラーニングシステムやクリッカーの導入、IR システム (教学評価組織) の導入を行い、本学の教育環境が日本でも先進的となるよう努力してきました。生涯学習計画研究部門は、大学公開講座や大学職員のための SD (職員研修)

の実施、キャリア教育やインターンシップの実施、生涯スポーツの取り組みなどを通じて、本学の生涯学習の発展を支えてきました。また、入学者選抜研究部門は、平成

12 年度から始まった AO 入試の推進や入試広報、高大連携を介して入試改革に寄与しています。

しかし、現状では以下のような問題が生じてきています。

- ① 3 研究部門は専任教員が 2～4 名の少人数から構成されており、部門間の連携も不十分である。また、各委員会も部門ごとに設置されており組織が硬直的かつ非効率である。
- ② 4 研究部門からなる高等教育研究部の部長を高等教育推進機構長が兼務しているが、多忙であり、

実質上、高等教育研究部全体のリーダーシップが不足している。

- ④高等教育研究部と事務部門との連携が不十分
- ⑤実践業務が多いため研究活動が低調になりがち

新部門の目的と任務

そこで、これらの問題を解決するために組織再編の基本的方向性を決めました。すなわち、図1のように3研究部門を1研究部門に統合し、研究グループを作ることで、教員が流動的に研究や事業支援を行うものです。

(1) 目的

本研究部門の目的は、高等教育における将来的な諸問題に関する研究および具体的な問題解決です。その対象は、高大連携から入試制度、学士課程教育、大学院教育、生涯学習までが含まれます。本研究部門は、本学の教育および経営に寄与する研究や実践、情報の提供と提言を行います。また、研究成果を利用した高等教育に関連するサービスを学内外に提供します。

(2) 任務

新部門の役割は、教育に関する本学の中期計画や政府の将来計画を先取りし、それに必要な課題について研究し報告することにより、本学や日本の大学の支援をすることにあります。すなわち日本の高等

教育のシンクタンクならびに、本学および道内の大学のコンサルタントとなる、つまり未来の改革に向けた研究を行うことです。

今後予想される研究テーマは、教育制度改革、入試改革、授業法の改善、教育評価、生涯学習、体育・健康教育、地域連携などです。

一方、当面の間維持しなければならない事業は、FD（教員研修）、SD（職員研修）、TA研修、PFF（Preparing Future Faculty：教員となる学生のための）授業、IR、入試広報、学生の追跡調査、公開講座、キャリア教育とインターンシップ、高大連携、課外活動の支援となります。

実施体制

(1) 組織

現3研究部門を合併し高等教育研究部門とします。つまり、高等教育研究部の中に高等教育研究部門と科学技術コミュニケーション教育研究部門を置きます。これを統括するために高等教育研究部に部長を置きますが、部長ならびに高等教育研究部門長は副機構長が兼任します。また、高等教育研究部門に必要に応じて研究グループを設置します（図2）。

(2) 運営体制

研究をベースにしたよりゆるやかな組織として研究グループをいくつか創設し、専任教員は複数の研

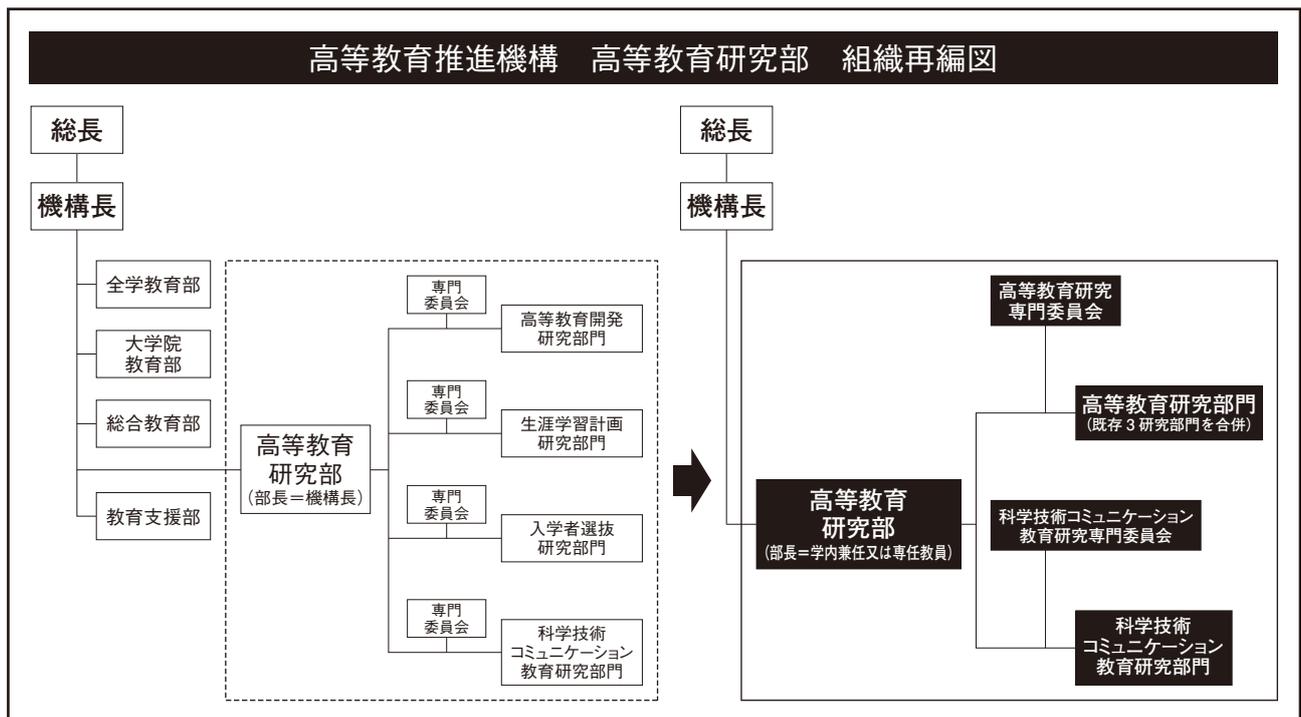


図1 高等教育推進機構 高等教育部 組織再編図

究グループに参加します。この研究グループは一定期間で見直すことになります。

初年度の研究グループ名は教育支援，教育評価，地域社会連携，学生支援とします。これとは別に研究グループ管理部を設置し，研究グループ全体を管理するとともに広報活動の中心とします。

研究グループごとにリーダー，サブリーダーを配置し，単独で行う事業にならないよう配慮します。リーダーは研究グループ管理部門にも属し，全体の活動の調整を行います。

これまでの実践業務は研究グループのもとにチームを形成し実施します。グループの活動を広く知っ

ていただくために，研究グループごとに，毎年活動報告をニュースレターおよびジャーナルに投稿することを義務づけます。また，3年程度の中期計画と年度ごとの年度計画を作成します。

これらの新たな方策により，9人の専任教員の有機的な相互協力が促され，従来の研究部門の枠組みにとらわれることのない自由な活動が可能となります。3研究部門を代表して，改編の概要を説明させていただきました。新しい試みですので，皆さまのご支援もいただきながら，成功に導きたいと考えています。ご期待ください。

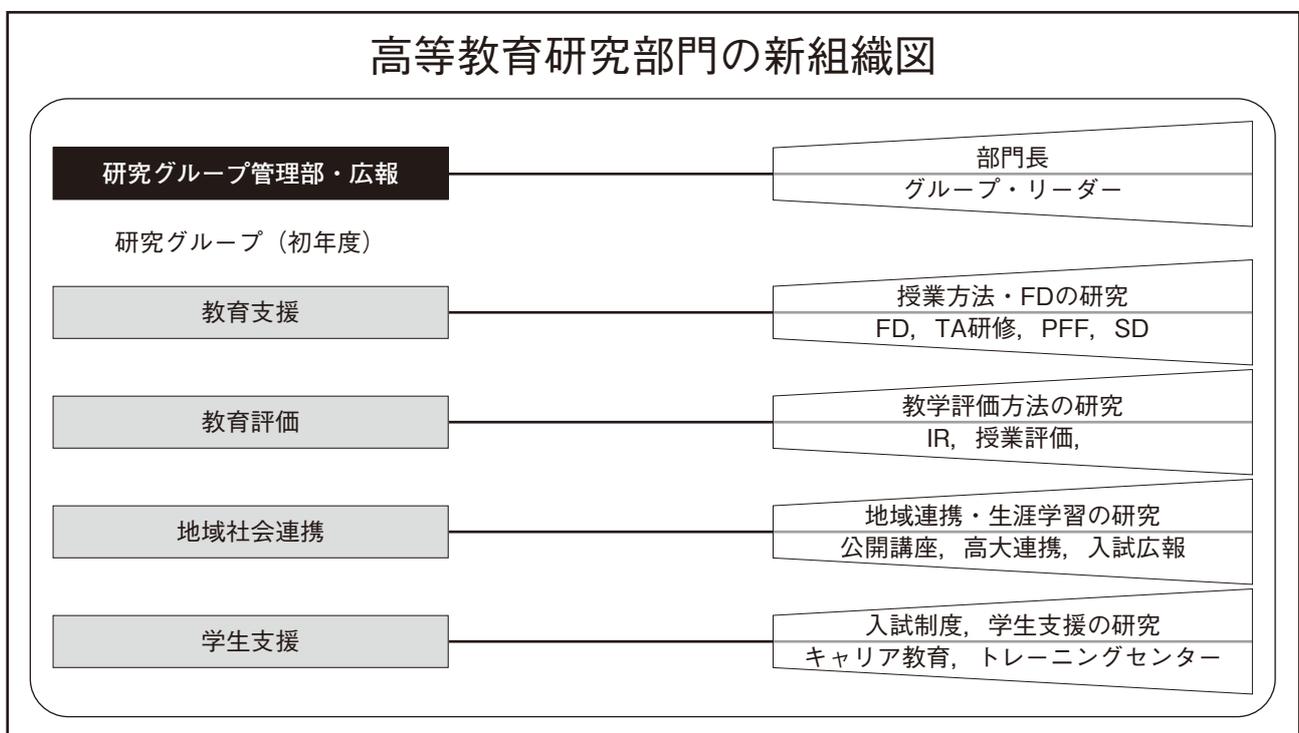


図2 高等教育研究部門の新組織図

学生と学生とが真に「出会う」ことができる場所へ —北大ピア・サポート 2013年度の活動—

北大ピア・サポート学生代表 国際広報メディア・観光学院博士後期課程1年 鎗水 孝太

2009年9月に北大ピア・サポートが発足してから4年半ほどになりました。この間、サポーターも手探りの中でイベントを開いてみたり、部屋を改造してみたりと様々な活動をおこなってまいりました。そのような中で、来室してくれる学生さんたちも、サポーターに相談をしたり、お昼ご飯を食べたり、友達と談笑したり、ときにはちょっと昼寝をしたりと、学生、特に1年生にとって、大きな「居場所」として定着してきたかと思っています。

特に今年度は、昨年度までの平日月・水・金の週三日間の開室から、平日月～金までの全日開室へ時間を拡大し、毎日利用できる場所となりました。これまで以上に「顔」の見える「先輩」というかたちで来室者のみなさんとふれあうことができたかと思っています（写真1）。

さて、今年度の活動について、実はそれほど大きなトピックはありません。もちろん日常やってくる様々な相談に応じるのは当たり前として、昨年度まで行ってきた来室者にコーヒー等をふるまう「ピアカフェ」や総合入試の導入とともに始めた北図書館との合同イベント「少年よ、学部を選べ！」などのイベント、授業の印象や勉強方法のアドバイス、進路選択についてのエピソードなどを集めた『進路情報データベースとらのまき』の作成など、これまでやってきたことを、もちろんマンネリ化しないように注意し新しく考えを入れながら、おこなってまいりました。それは、もしかしたら活動の停滞だったのかもしれない。ただ一方で、これは北大ピア・サポートの「黎明期の終わり」なのではないだろうかとも思います。そのような中でサポーターの方から、より深くしっかりと来室者と交流できるように

積極的に活動していこうという意識が生まれています。それは気張りすぎず、だからといって停滞しないように、今後活動を継続させていくためには重要なことだと思います

来年度も北大生の学生生活が充実したものになるように、学生の立場だからできる活動をおこなっていきたくと思います。活動の詳細は、『ピア・サポート活動報告書』にまとめております。北大学術成果コレクション「HUSCAP」の方にも全て掲載しておりますので、是非ご参照ください。

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/49464>

（付言いたしますと、本来「HUSCAP」は基本的に修士学生以上によるものしか挙げられないのですが、本報告書では学部生のサポーターに執筆してもらったものも、特別に「HUSCAP」にて公表していただいております。おそらくそのような機会は学部生の間にはなかなか得られるものではなく、これもピア・サポート活動の一つの教育的価値なのではないかと思っています）。



写真1 ピア・サポート室の様子

全学教育 GENERAL EDUCATION & 総合教育 FIRST YEAR EDUCATION

学務委員会報告

学務委員会報告

平成 26 年 2 月 28 日（金）に平成 25 年度 5 回学務委員会が開催され、以下の議題について話し合いました。

平成 25 年度第 5 回学務委員会

議題

1. 「「秀」評価、GPA 制度、自由設計科目制度及び履修登録単位数の上限設定の実施について (Q & A)」について
2. 平成 26 年度全学教育に関わる T・A の採用について
3. 出欠確認システムによる授業実施回数の確認について
4. 英語による理系基礎科目の国際交流科目との合同開講について
5. 進級判定・進級要件単位充足判定について
6. 第 0 次振り分け定員・第 1 次振り分け定員の決定について
7. 「2 年次進級時における学部・学科等への移行点の算出基準単位表」の変更について
8. 総合教育学務専門委員会と総合教育学生専門委員会との統合について
9. 北海道大学大学院理工系専門基礎科目規程の一部を改正する規程について
10. 北海道大学大学院共通科目の規程の一部を改正する規程について
11. 北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓する Ambitious リーダー育成プログラム規程について
12. 北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓する Ambitious リーダー育成プログラム運営委員会規程について

報告事項

1. 平成 26 年度授業参観の実施について
2. 平成 25 年度全学教育専門委員会の検討事項（報告）について
3. 全学教育科目における学生からの成績評価に対する申し立て制度の取扱いについて
4. 平成 26 年度全学教育科目の開講計画変更について
5. 平成 25 年度第 1 学期の成績評価結果等について
6. 平成 25 年度第 2 学期履修者数について
7. 全学教育科目に係る授業アンケートにおけるエクセレント・ティーチャーの選定基準の一部改正について
8. 平成 25 年度北海道大学フロンティア奨学金受給者（総合教育部）の推薦について
9. 北海道地区国立大学における教養教育の単位互換に関する協定等の締結について

「秀」評価、GPA 制度、自由設計科目制度及び履修登録単位数の上限設定の実施について (Q & A)

毎年教員に配布される「「秀」評価、GPA 制度、自由設計科目制度及び履修登録単位数の上限設定の実施について(Q & A)」の更新案が了承されました。

平成 26 年度全学教育に関わる TA の採用

平成 26 年度の TA 採用計画調書が了承されました。TA 採用者は平成 25 年度の 1,292 名から 1,276 名へ微減しました。

出欠確認システムによる授業実施回数の確認

現在全学教育では学生証の IC カードを利用した出欠確認システムが取り入れられており、教員もまた職員証による確認が試験的に実施されています。来年度も引き続き職員証による確認の試験的实施を行うことが了承されました。

英語による理系基礎科目の国際交流科目との合同開講

平成 25 年度 1 学期より、全学教育科目の基礎理科科目において英語による授業の提供が開始されました。平成 26 年度から当該科目を国際交流科目との合同開講することが了承されました。

進級判定・進級要件単位充足判定

総合入試入学者の文系 111 名、理系 1,070 名、学部別入学者の 1,372 名が、2 年次への進級要件 32 単位を充たしました。

「2 年次進級時における学部・学科等への移行点の算出基準単位表」の変更

平成 27 年度の理系（医学部を除く）、および医学部医学科の移行点算出基準の変更案が出され、了承されました。

総合教育学務専門委員会と総合教育学生専門委員会との統合

総合教育教務専門委員会と総合教育学生専門委員会を統合し「総合教育教務・学生専門委員会」とすることが提案され了承されました。

北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓する Ambitious リーダー育成プログラム

平成 26 年度から、本学大学院において、博士課

程教育リーディングプログラムにより採択された学位プログラム「物質科学フロンティアを開拓する Ambitious リーダー育成プログラム」を実施するに伴い、プログラムの編成および修了要件が了承されました。また、これに基づく運営委員会規程が定められました。

報告事項

平成 26 年度授業参観の実施

全学教育における授業参観は、参加者数が平成 24 年度の 54 人から 14 人に大幅減となったため、他の教員の参考になる授業の参観を個別に交渉していくことを検討することが報告されました。

全学教育科目における学生からの成績評価に対する申し立て制度の取り扱い

全学教育担当教員にアンケートを実施することが報告されました。

全学教育科目に係る授業アンケートにおけるエクセレント・ティーチャーの選定基準の一部改正

エクセレント・ティーチャーの候補者を、専任教員から、教員（非常勤講師を除く）として、特任教員などを含めるように基準を改定したことが報告されました。

(鈴木 久男 理学研究院教授・総合教育部長)

2014 (平成 26) 年度 全学教育部・総合教育部行事予定表

第 1 学期

月 日 (曜日)	行事
4 1(火)～4(金)	新入生定期健康診断
7(月)	新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス (学部・学科等移行ガイダンス, 学部ガイダンス)
8(火)	入学式
9(水)	履修調整・登録に関するガイダンス及び教育情報システム (ELMS) 利用に関するガイダンス
10(木)	第 1 学期授業開始日
10(木)～16(水)	抽選科目の申込期間 (Web 入力)
18(金)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
21(月)～25(金)	平成 18～26 年度入学者履修届 Web 入力
21(月), 22(火)	平成 17 年度以前入学者履修届受付
5 19(月)	6 講時授業実施開始※下記参照
6 5(木)	開学記念行事日 (休講)
5(木)～8(日)	大学祭 [5 (木), 6 (金) は休講]
11(水)～13(金)	履修登録した科目の取消し受付 (Web)
14(土)	TOEFL-ITP 試験 (英語 II)
26(木)	6 講時授業実施終了※下記参照
7 24(木)	木曜日の授業終了日
25(金)	金曜日の授業終了日
30(水)	水曜日の授業終了日
31(木)	火曜日の授業を行う日 (木曜日の授業は行わない)
8 1(金)	初習外国語統一試験日 (通常授業は休講)
3(日)～4(月)	オープンキャンパス
4(月)	月曜日の授業終了日
5(火)	第 1 学期授業終了日
6(水)～9月25日(木)	夏季休業
13(水)	成績報告締切 (非常勤 [帳票])
18 (月) 正午	成績報告締切 (常勤 [Web 入力])
25(月)	平成 18～26 年度入学者の全学教育科目成績 Web 上公開
25(月)～26 日(火)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
25(月)～9月25日(木)	自由設計科目登録変更期間
9 上旬～中旬	学科等分属手続: 当該学部 (2 年次以上)

第 1 回クラスアワー	4 月 7 日 (月) 新入生オリエンテーション時
第 2 回クラスアワー	5 月上旬～6 月上旬
第 3 回クラスアワー	9 月下旬～10 月上旬 (基本的に 9 月 24 日 (水) 午前を利用)
第 4 回クラスアワー	2 月初旬 (基本的に 2 月 4 日 (水) 午前を利用)

第 2 学期

月 日 (曜日)	行事
9 24(水)午後	学部・学科等移行ガイダンス
25(木)	学部・学科等紹介
26(金)	第 2 学期授業開始日
26(金)～10月2日(木)	学部・学科等移行手続き (予備志望調査)
26(金)～10月2日(木)	抽選科目の申込期間 (Web 入力)
10 6(月)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
7(火)～14(火)	平成 18～26 年度入学者履修届 Web 入力
7(火), 8(水)	平成 17 年度以前入学者履修届受付
11 16(日)	AO 入試・帰国子女入試
12 3(水)～5(金)	履修登録した科目の取消し受付 (Web)
25(木)	月曜日の授業を行う日 (木曜日の授業は行わない)
26(金)～1月4日(日)	冬季休業
1 5(月)	授業再開
13(火)	月曜日の授業を行う日 (火曜日の授業は行わない)
16(金)	センター試験準備 (休講)
17(土)～18(日)	大学入試センター試験
21(水)	水曜日の授業終了日
28(水)	初習外国語統一試験日 (通常授業は休講)
29(木)	木曜日の授業終了日
30(金)	金曜日の授業終了日
2 2(月)	月曜日の授業終了日
3(火)	火曜日の授業終了日 (第 2 学期授業終了日)
4(水)午後	学部・学科等移行ガイダンス
5(木)	学部・学科等紹介
9(月)	成績報告締切 (常勤 [Web 入力], 非常勤 [帳票])
16(月)	平成 18～26 年度入学者の全学教育科目成績 Web 上公開
16(月)～17(火)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
16(月)～20(金) (未定)	自由設計科目登録変更期間 私費外国人留学生入試第 2 次選考
25(水)～26(木)	一般入試個別学力検査等 (前期日程)
27(金)正午	全学教育科目成績確定
27(金)午後～	第 1 年次進級判定
27(金)午後～	学部・学科等移行手続き
～3月19日(木)	(第 1 回志望調査～各学部振り分け)
3 12(木)	一般入試個別学力検査等 (後期日程)

※ 6 講時 (18:15-19:45) 授業実施スケジュール

月曜 1 講時の授業は	5 月 22 日 (木) 実施	木曜 1 講時の授業は	5 月 19 日 (月) 実施	金曜 1 講時の授業は	5 月 20 日 (火) 実施
月曜 2 講時の授業は	5 月 29 日 (木) 実施	木曜 2 講時の授業は	5 月 26 日 (月) 実施	金曜 2 講時の授業は	5 月 27 日 (火) 実施
月曜 3 講時の授業は	6 月 12 日 (木) 実施	木曜 3 講時の授業は	6 月 9 日 (月) 実施	金曜 3 講時の授業は	6 月 10 日 (火) 実施
月曜 4 講時の授業は	6 月 19 日 (木) 実施	木曜 4 講時の授業は	6 月 16 日 (月) 実施	金曜 4 講時の授業は	6 月 17 日 (火) 実施
月曜 5 講時の授業は	6 月 26 日 (木) 実施	木曜 5 講時の授業は	6 月 23 日 (月) 実施	金曜 5 講時の授業は	6 月 24 日 (火) 実施

平成 25/24 年度 (第 1 学期) 全学教育科目履修者数対比表

区分	授業科目	25 年度 1 学期 (履修取消後)			24 年度 1 学期 (履修取消後)			25/24 年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	92	1,926	20.93	93	2,122	22.82	▲ 196	90.8%
	(集中・論文指導除く) 小計	28	495	17.68	22	469	21.32	26	105.5%
	(集中:フィールド体験 (通年集中除く)) 小計	(14)	(331)	23.64	14	438	31.29	▲ 107	75.6%
	(論文指導) 小計	50	1,100	22.00	57	1,215	21.32	▲ 115	90.5%
総合科目	環境と人間	18	1,099	61.06	17	1,129	66.41	▲ 30	97.3%
	健康と社会	8	1,731	216.38	10	1,493	149.30	238	115.9%
	人間と文化	7	451	64.43	7	364	52.00	87	123.9%
	人間と文化 (集中)	1	14	14.00	1	15	15.00	▲ 1	93.3%
	特別講義	2	65	32.50	2	129	64.50	▲ 64	50.4%
	学問の世界 ※ (単位取得者数)	(1)	(329)	(329)	(3)	(104)	(34.67)	-	-
	総合科目 小計	36	3,360	93.33	37	3,130	84.59	230	107.3%
主題別科目	思索と言語	13	877	67.46	15	1,294	86.27	▲ 417	67.8%
	思索と言語 (論文指導)	3	40	13.33	3	48	16.00	▲ 8	83.3%
	歴史の視座	5	360	72.00	7	649	92.71	▲ 289	55.5%
	歴史の視座 (論文指導)	3	61	20.33	3	64	21.33	▲ 3	95.3%
	芸術と文学	11	934	84.91	10	696	69.60	238	134.2%
	芸術と文学 (集中)	2	136	68.00	2	140	70.00	▲ 4	97.1%
	芸術と文学 (論文指導)	4	76	19.00	4	80	20.00	▲ 4	95.0%
	社会の認識	22	1,865	84.77	23	1,909	83.00	▲ 44	97.7%
	社会の認識 (論文指導)	8	122	15.25	10	121	12.10	1	100.8%
	科学・技術の世界	15	1,892	126.13	13	1,367	105.15	525	138.4%
	科学・技術の世界 (論文指導)	3	46	15.33	4	107	26.75	▲ 61	43.0%
	主題別科目 小計	89	6,409	72.01	94	6,475	68.88	▲ 66	99.0%
	(集中・論文指導除く) 小計	66	5,928	89.82	68	5,915	86.99	13	100.2%
(集中) 小計	2	136	68.00	2	140	70	▲ 4	97.1%	
(論文指導) 小計	21	345	16.43	24	420	17.50	▲ 75	82.1%	
共通科目	体育学 A (実技・1 単位)	53	1,459	27.53	53	1,597	30.13	▲ 138	91.4%
	体育学 B (講義・2 単位)	1	115	115.00	1	96	96.00	19	119.8%
	情報学	18	2,672	148.44	18	2,729	151.61	▲ 57	97.9%
	統計学	11	946	86.00	11	851	77.36	95	111.2%
	インターンシップ ※ (単位取得者数)	(2)	(142)	(71)	(2)	(157)	(79)	-	-
	共通科目 小計	83	5,192	62.55	83	5,273	63.53	▲ 81	98.5%
外国語を除く教養科目 合計		300	16,887	56.29	307	17,000	55.37	▲ 113	99.3%
うち論文指導 (主題別・一般教育演習) 小計		71	1,445	20.35	81	1,635	20.19	▲ 190	88.4%
外国語科目	英語	137	5,365	39.16	140	5,414	38.67	▲ 49	99.1%
	ドイツ語	29	1,090	37.59	30	1,123	37.43	▲ 33	97.1%
	フランス語	15	420	28.00	13	329	25.31	91	127.7%
	ロシア語	5	163	32.60	5	111	22.20	52	146.8%
	スペイン語	6	278	46.33	6	274	45.67	4	101.5%
	中国語	24	636	26.50	24	790	32.92	▲ 154	80.5%
	韓国語	5	159	31.80	5	159	31.80	0	100.0%
	外国語科目 小計	221	8,111	36.70	223	8,200	36.77	▲ 89	98.9%
外国語演習	英語演習	104	1,842	17.71	88	1,842	20.93	0	100.0%
	英語演習 (集中)	3	75	25.00	1	30	30.00	45	250.0%
	ドイツ語演習	14	288	20.57	15	343	22.87	▲ 55	84.0%
	フランス語演習	13	185	14.23	12	180	15.00	5	102.8%
	ロシア語演習	6	73	12.17	6	68	11.33	5	107.4%
	スペイン語演習	8	187	23.38	7	163	23.29	24	114.7%
	中国語演習	18	314	17.44	14	346	24.71	▲ 32	90.8%
	韓国語演習	6	75	12.50	6	111	18.50	▲ 36	67.6%
	外国語特別演習	14	244	17.43	15	233	15.53	11	104.7%
	外国語演習 小計	186	3,283	17.65	164	3,316	20.22	▲ 33	99.0%
外国語 合計		407	11,394	28.00	387	11,516	29.76	▲ 122	98.9%
基礎科目	人文・社会科学の基礎 (集中含む)	10	1,237	123.70	12	1,350	112.50	▲ 113	91.6%
	文系基礎科目 小計	10	1,237	123.70	12	1,350	112.50	▲ 113	91.6%
	線形代数学	33	1,815	55.00	33	1,883	57.06	▲ 68	96.4%
	微分積分学	33	1,900	57.58	33	1,861	56.39	39	102.1%
	数学概論	3	49	16.33	4	55	13.75	▲ 6	89.1%
	数学 小計	69	3,764	54.55	70	3,799	54.27	▲ 35	99.1%
	物理学・物理学 (上級)	27	1,731	64.11	26	1,786	68.69	▲ 55	96.9%
	化学	29	1,878	64.76	29	1,923	66.31	▲ 45	97.7%
	生物学	21	1,488	70.86	20	1,527	76.35	▲ 39	97.4%
	地球惑星科学	7	825	117.86	7	934	133.43	▲ 109	88.3%
	理科 小計	84	5,922	70.50	82	6,170	75.24	▲ 248	96.0%
	基礎自然科学実験	1	17	17.00	1	21	21.00	▲ 4	81.0%
	自然科学実験	18	1,005	55.83	18	996	55.33	9	100.9%
	実験 小計	19	1,022	53.79	19	1,017	53.53	5	100.5%
基礎科目 合計	182	11,945	65.63	183	12,336	67.41	▲ 391	96.8%	
日本語・日本事情	4	44	11.00	4	28	7.00	16	157.1%	
全学教育科目 1 学期合計	893	40,270	45.10	881	40,880	46.40	▲ 610	98.5%	

※一般教育演習 集中講義「グローバルキャリアデザイン」、「学問の世界」及び「インターンシップ」の履修者数は、履修登録を要しない特殊な科目のため「25/24 年度比較」欄は、これらを除いて算出している。

平成 25/24 年度 (第 2 学期) 全学教育科目履修者数対比表

区分	授業科目	25 年度 2 学期			24 年度 2 学期			25/24 年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	53	1,204	22.72	52	1,185	22.79	19	101.6%
	(集中・論文指導除く) 小計	24	520	21.67	15	380	25.33	140	136.8%
	(集中・フィールド体験) 小計	5	164	32.80	6	129	21.50	35	127.1%
	(論文指導) 小計	24	520	21.67	31	676	21.81	▲156	76.9%
総合科目	環境と人間	18	1,698	94.33	18	1,548	86.00	150	109.7%
	健康と社会	6	1,241	206.83	5	1,233	246.60	8	100.6%
	人間と文化	5	487	97.40	4	370	92.50	117	131.6%
	特別講義	1	47	47.00	1	56	56.00	▲9	83.9%
	学問の世界※	0	0	0.00	1	90	90.00	▲90	0.0%
	総合科目 小計	30	3,473	115.77	29	3,297	113.69	176	105.3%
主題別科目	思索と言語	10	1,362	136.20	9	774	86.00	588	176.0%
	思索と言語 (論文指導)	3	162	54.00	2	45	22.50	117	360.0%
	歴史の視座	10	1,171	117.10	10	844	84.40	327	138.7%
	歴史の視座 (論文指導)	4	87	21.75	6	94	15.67	▲7	92.6%
	芸術と文学	5	1,062	212.40	7	1,668	238.29	▲606	63.7%
	芸術と文学 (論文指導)	2	40	20.00	2	64	32.00	▲24	62.5%
	社会の認識	11	1,162	105.64	12	1,495	124.58	▲333	77.7%
	社会の認識 (論文指導)	10	169	16.90	5	89	17.80	80	189.9%
	科学・技術の世界	14	1,432	102.29	16	1,753	109.56	▲321	81.7%
	科学・技術の世界 (論文指導)	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0.0%
	主題別科目 小計	69	6,647	96.33	69	6,826	98.93	▲179	97.4%
(集中・論文指導除く) 小計	50	6,189	123.78	54	6,534	121.00	▲345	94.7%	
(論文指導) 小計	19	458	24.11	15	292	19.47	166	156.8%	
外国語科目	英語	154	4,790	31.10	150	4,940	32.93	▲150	97.0%
	ドイツ語	29	1,089	37.55	30	1,102	36.73	▲13	98.8%
	フランス語	12	425	35.42	13	323	24.85	102	131.6%
	ロシア語	5	162	32.40	5	113	22.60	49	143.4%
	スペイン語	6	262	43.67	6	275	45.83	▲13	95.3%
	中国語	23	626	27.22	23	796	34.61	▲170	78.6%
	韓国語	5	149	29.80	5	155	31.00	▲6	96.1%
外国語科目 小計	234	7,503	32.06	232	7,704	33.21	▲201	97.4%	
外国語演習	英語演習	48	987	20.56	53	1,269	23.94	▲282	77.8%
	ドイツ語演習	15	356	23.73	14	347	24.79	9	102.6%
	フランス語演習	11	198	18.00	12	181	15.08	17	109.4%
	ロシア語演習	7	122	17.43	7	118	16.86	4	103.4%
	スペイン語演習	7	156	22.29	5	116	23.20	40	134.5%
	中国語演習	17	385	22.65	13	361	27.77	24	106.6%
	韓国語演習	7	104	14.86	6	111	18.50	▲7	93.7%
	外国語特別演習	14	232	16.57	15	281	18.73	▲49	82.6%
外国語演習 小計	126	2,540	20.16	125	2,784	22.27	▲244	91.2%	
外国語 合計		360	10,043	27.90	357	10,488	29.38	▲445	95.8%
共通科目	体育学 A (実技・1 単位)	48	1,297	27.02	50	1,382	27.64	▲85	93.8%
	体育学 B (講義・2 単位)	1	370	370.00	1	328	328.00	42	112.8%
	情報学	10	589	58.90	10	518	51.80	71	113.7%
	統計学	9	802	89.11	9	820	91.11	▲18	97.8%
	共通科目 小計	68	3,058	44.97	70	3,048	43.54	10	100.3%
外国語を除く教養科目 合計		220	14,382	65.37	220	14,356	65.25	26	100.2%
うち論文指導 (主題別・一般教育演習) 小計		43	978	22.74	46	968	21.04	10	101.0%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	5	988	197.60	6	892	148.67	96	110.8%
	文系基礎科目 小計	5	988	197.60	6	892	148.67	96	110.8%
	線形代数学	27	1,249	46.26	27	1,293	47.89	▲44	96.6%
	微分積分学	27	1,494	55.33	27	1,512	56.00	▲18	98.8%
	数学概論	1	13	13.00	1	21	21.00	▲8	61.9%
	数学 小計	55	2,756	50.11	55	2,826	51.38	▲70	97.5%
	物理学・物理学 (上級)	27	1,589	58.85	26	1,649	63.42	▲60	96.4%
	化学	27	1,823	67.52	27	1,906	70.59	▲83	95.6%
	生物学	21	1,342	63.90	20	1,397	69.85	▲55	96.1%
	地球惑星科学	5	1,245	249.00	5	1,198	239.60	47	103.9%
	理科 小計	80	5,999	74.99	78	6,150	78.85	▲151	97.5%
	心理学実験	4	85	21.25	4	108	27.00	▲23	78.7%
	自然科学実験 (2 単位)	18	1,026	57.00	18	1,056	58.67	▲30	97.2%
実験 小計	22	1,111	50.50	22	1,164	52.91	▲53	95.4%	
基礎科目 合計		162	10,854	67.00	161	11,032	68.52	▲178	98.4%
日本語・日本事情		1	23	23.00	1	18	18.00	5	127.8%
全学教育科目 2 学期合計		743	35,302	47.51	739	35,894	48.57	▲592	98.4%
全学教育科目 1 学期合計		892	35,673	39.99	886	41,133	46.43	▲5,460	86.7%
全学教育科目 1・2 学期合計		1,635	70,975	43.41	1,625	77,027	47.40	▲6,052	92.1%

※「学問の世界」は、25 年度については 1 学期集中として行った

北海道大学卒業生調査 2013 を実施しました

大学教育で身につけた能力と社会で求められる能力との関連を探り、これからの本学の教育のあり方、進むべき指標を得ることを目的として、2013年10月に、北海道大学卒業生調査を行いました。調査の対象は、学部卒業後5年、10年、15年、20年、25年の卒業生とし、学生時代の教育や生活に関する意識、卒業後の大学とのつながり、卒業後の仕事の状況、大学教育への要望などを聞いています。参加は学部の任意となっており、本年度は7学部が実施しました(表1)。

調査票は2種類あり、ひとつは、文部科学省平成24年度採択大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」に基づいた共通の調査票、もうひとつは、各学部独自の調査票です。これら2種類の調査票

を同封し、各学部および同窓会の協力のもと、学部ごとに、卒業生の住所にメール便で送付、返信用の封筒により郵送で回収する方法で行いました。各学部、同窓会、卒業生のみなさまのご協力に御礼申し上げます。

回答者の属性(表1)、卒業学部(図1)、卒業年別の男女比(図2)は以下のとおりです。次号以降で、結果の一部をご紹介します。

なお、本調査の各学部データと集計・分析結果につきましても、担当教員が持参し、ご説明いたします。本調査は2014年度も引き続き実施予定です。新たに参加のご希望がある学部がございましたら、IR担当(徳井・宮本)までお知らせください。

(徳井 美智代・宮本 淳)

表1 学部別調査票回収状況

学部名	送付数	宛先不明	実質送付数	有効回収数	有効回収率
法学部	641	32	609	102	16.7%
経済学部	333	24	309	41	13.3%
医学部医学科	424	16	408	142	34.8%
医学部保健学科	83	9	74	18	24.3%
歯学部	218	3	215	79	36.7%
農学部	372	19	353	145	41.1%
獣医学部	152	19	133	37	27.8%
水産学部	580	46	534	139	26.0%
合計	2,803	168	2,635	703	26.7%

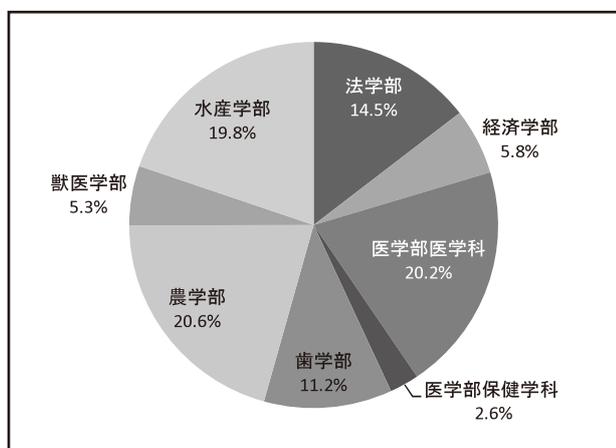


図1 卒業学部

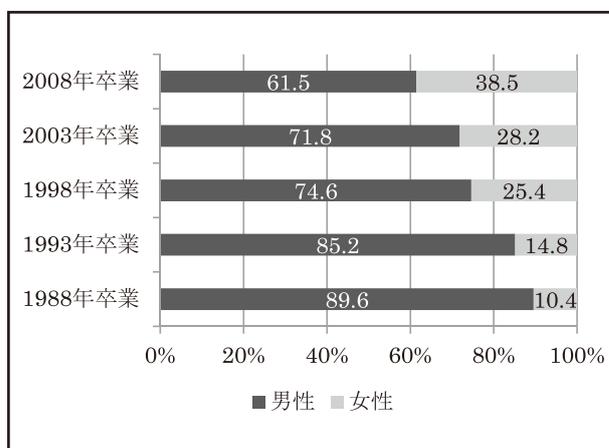


図2 卒業年別男女比

高等教育 HIGHER EDUCATION

初心者向け教員用 ELMS 操作マニュアルを発行

平成 26 年 3 月に、『初心者向け教員用 ELMS 操作マニュアル』を発行しました(図 1)。

社会の情報化が進み、教育分野においても IT 技術活用の必要性が高まっています。北海道大学でも教育学習支援システムとして、ELMS (Education and Learning Management System) を運用しており、課題の実施、資料の掲示、コミュニケーションツールなど、様々な授業支援サービスを提供しています。

学生は、1 年次の情報学、メールアドレスの取得、履修登録などで活用されていることから、ELMS 操作に慣れている方も多くなっています。一方で、授業等で ELMS をほとんど活用したことがない教職員も少なくないのが現状です。この現状改善の一助とすべく、本マニュアルを作成しました。

多種ある ELMS 機能の中で、教員が活用することが多いと想定される、「お知らせ・資料の掲載、メールの一斉送信 (4 章)」と、「課題機能 (5 章)」に焦点を絞り、図付きでわかりやすく解説しています。特に、課題には自動採点機能も備わっており、授業

外学習時間の確保を効率的に進めることも可能です。また、課題機能等活用の前段階である、「ELMS へのサインオン (1 章)」、「グループの開設 (2 章)」、「参加者の管理 (3 章)」も掲載していますので、初心者の方でも安心の内容となっています。

2013 年 9 月にトライアルとして実施した「初心者向け ELMS ミニ講座」では、受講者に『ELMS 操作マニュアル (暫定版)』を参照しながら実際に ELMS を操作してもらって、マニュアルで理解しにくい点などの意見を収集するとともに、情報基盤センター布施泉教授らのご協力も得て、内容の改善に努めました。

本マニュアルがきっかけとなって、ELMS を活用した授業運営が展開され、さらなる授業改善がはかれることを期待しています。

なお、下記ホームページでも、本マニュアルを閲覧できます。

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/ElmsManual.pdf>

(竹山 幸作)



図 1 初心者向け教員用 ELMS 操作マニュアル

生涯学習 LIFELONG LEARNING

スポーツトレーニングセンターの施設利用が再開されました

2013年10月1日より耐震補強工事のためにトレーニング施設の使用を停止していましたが、1月下旬に工事が終了し、2月8日より施設利用が再開されました。当初の工事終了予定を12月下旬と公表していましたが、再開までは1ヶ月半ほど遅れてしまいました。

壁・床は全面張り替えになっております(写真1)。キズ等つかないように丁寧な利用をお願い致しま

す。また、これまでどおり利用の際は入口での記帳をお願い致します。利用実績の確実な把握が施設充実に繋がります。

施設充実に向けて取り組んでいきますので、今後とも積極的な利用をお願い致します。(瀧澤 一騎)
公式サイト <http://life1.high.hokudai.ac.jp/sports/>
FB サイト <https://www.facebook.com/HokkaidoUniversitySportsTrainingCenter>



写真1 改修後のスポーツトレーニングセンター内観

科学技術コミュニケーション CoSTEP

2013年度 CoSTEP の教育活動をふりかえって ～トランスサイエンス実習の活動を中心に～

科学技術コミュニケーション教育研究部門では、科学技術コミュニケーター養成プログラム (CoSTEP) を毎年5月から翌年3月にかけて実施しています。本稿では、その中のある授業の活動をとりあげ、CoSTEPでの学びの集大成である成果発表会について紹介します。

活断層に関する一般向けのイベントを開催

本プログラムには、科学技術コミュニケーションに関する社会的実践の機会を多くもつ本科と、e-learningと集中演習を通じて主に学ぶ選科があります。2013年度は、本科生と選科生が任意に参加できる「選択実習」として、「トランスサイエンス実習」を開講しました。実習生は9名。北大の大学院生と社会人からなる混成チームです。

トランスサイエンス実習の目標は、科学技術に関する社会的な問題について理解を深め、論点を整理し、それを非専門家に分かりやすく伝える方法を学ぶことでした。

初回の授業では、実習生が取り組みたい課題を発表しあい、その中から、ニュースにもしばしば現れ市民の関心も高いと思われる活断層をテーマとして選び、科学技術コミュニケーション活動を実践することになりました。2回目以降の授業では、活断層についての基本的な知識を調べ、市民がどのようなことに関心があるのか、市民に理解しやすい内容かといった視点から情報を整理し、市民に情報提供するための資料を作成しました。資料作成に当たっては、北海道における活断層調査の第一人者である、田近淳氏（北海道立総合研究機構 地質研究所 地域地質部長）に監修を依頼しました。

このように作成した情報提供資料をもとに、市民に活断層についてまず興味をもってもらい、基本的な知識やリスクなどについて知ってもらうことを目標に、2014年1月26日（13:30～15:30）に北大学術交流会館において「知ることから始めよう

～あなたの家の下が活断層だったら!?～」を開催しました。このイベントでは、参加者に知識を得てもらうだけでなく、その知識を今後の自分の判断や行動に役立てて、適切にリスク管理をしてもらうことも目指しました。

イベント開催の2週間前から、「活断層の上に建ててよい建物は何か?」「そう判断した理由は?」という項目からなるアンケートをウェブ上に公開し、113人から回答を得ました。

当日は39人が参加。テレビ局の取材もあり、一般の人たちの関心の高さがうかがわれました。

話題提供者は、実習生の大浦宏照氏。地質調査会社に勤めるかたわら、公益社団法人日本技術士会北海道本部 防災委員会委員として、地域住民に対してリスクコミュニケーションの活動を行っている社会人です。

第1部では、参加者に、事前ウェブアンケートと同じアンケート (T1) に答えてもらってから、活断層とそのリスクに関する大浦氏のレクチャーを聞いてもらいました。クリッカーを使ったクイズを随所にはさんで、楽しく参加してもらえるように工夫しました (写真1)。

レクチャー後、T1と同じアンケート (T2) に回答してもらいました。そして、レクチャーを受けて

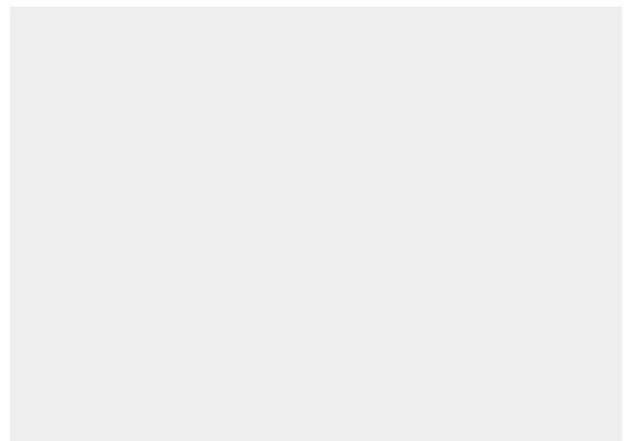


写真1 レクチャーをする実習生の大浦氏

浮かんできた質問をカードに記入してもらいました。

第2部では、参加者からの質問に対して、専門家の立場から田近氏に回答してもらいました。多くの質問が寄せられ、活断層について関心が高いことがわかりました。

そして、道内の活断層の事例についてレクチャーを受けてから、どのような意見をもっているのか、実習生等がファシリテーターに入り、参加者たちがグループトークを行いました。参加者のほとんどが札幌在住で、自分の地域は安全なのかどうか切実に知りたいと思っている人が多く、活発な意見交換がなされました。グループトークを経て、T1、T2と同じアンケート(T3)に回答してもらい、イベントは終了しました。

事前ウェブアンケートとT1を比較すると、イベント参加者の回答は全般的に、活断層の上に建物を建ててはいけないと思う割合が多いものでした。また、ショッピングモールや高速道路など、多くの人々が利用する建造物を活断層の上に造ってもよいと回答した人が、T1からT3にかけて徐々に減っていく傾向がみられました。

参加者に当日回答できなかった質問に対しては、後日CoSTEPのウェブサイト上で、大浦氏と田近氏からの回答を公開しました。

CoSTEPにおける学びの集大成の場

2014年3月8日、学術交流会館において、2013年度CoSTEPの成果発表会と修了式が開催されました。

午前は小講堂での成果発表。本科の実習(ライティング・編集、グラフィックデザイン、映像制作、対話の場の創造)と、選科の集中演習(サイエンスイベントの企画・運営を学ぶ演習A、サイエンスライティングを学ぶ演習B)について、実習や演習で学んだ成果などが発表されました(写真2)。

各発表は8分でしたが、スライドとトークを組



写真2 本科実習生の成果発表の様子

み合わせたり、動画を盛り込んだりと、工夫を凝らした発表もありました。また、道外からの受講生が多い選科では、ウェブを通じて準備を進めてきました。受講生にとっては、自らの学習を振り返るとともに、他の受講生の学びについても知ることができ、互いの学びを共有する機会となりました。

1階ロビーでは、ポスター発表が行われました。本科実習、選科集中演習、選択実習などのポスターが展示されました。研修科生や修了生が行っている活動についてのポスターも展示され、受講生たちは刺激を受けていたようです。また、道内外から多くの修了生が駆けつけ、受講生、修了生、そして一般の来場者の交流も活発に行われていました。

最後は修了式。2013年度の修了者は64名(本科21名、選科40名、研修科3名)でした。まず杉山滋郎・科学技術コミュニケーション教育研究部門長の挨拶がありました。次に、新田孝彦・高等教育推進機構長より祝辞をいただき、各コースの代表者4名に修了証書が授与されました。その後、杉山部門長より修了生一人ひとりに修了証書が手渡されました。

科学技術の専門家と非専門家、科学技術と社会の間を橋渡しする科学技術コミュニケーターとして、彼らが今後、多様な場においていっそう活躍してくれることを期待しています。(斉藤 健)

教育支援 EDUCATIONAL SUPPORT

2013年度 アカデミック・サポートセンター (ASC) 活動報告

ASCの活動は既存の枠を超えて広がっています(!)。先日は東北大学のSLA (Student Learning Adviser) という組織の方々がASCに来られ、互いの活動形態・内容、ノウハウの共有が行われました。SLAは、教育学専門のスタッフにより、細部まで行き届いた学習支援体制が築かれているのが魅力です。一方ASCはというと、各分野の専門的な知識を持つスタッフが配置され、それぞれが主体的に支援を展開していけるのが強みです。この交流をきっかけにして、今後は互いの活動を参考にするだけでなく、より具体的な連携を目標に議論を重ね、学習支援を担当する大学院生の研修を合同で行っていく方針が決まりました。

ここで、2013年度のASCの活動について報告します(表1:2013年度ASC利用状況)。2013年度は学習サポートや進路・修学相談といった従来の学修支援の強化に加え、新たな支援企画や他組織との連携に取り組みました。

進路・修学相談は例年と同様に、履修相談や、移行システムについての質問、そして学部・学科選択の相談等に対応しました。学部・学科選択に役立つアカデミック・マップの改訂が行われ、より情報量の多いマップが2014年度の新入生に配られます。新規企画として、2月6日の学部・学科紹介時に、ピア・サポート室と合同で進路相談会を開催しました。移行経験者の先輩の体験談を、移行を控えた学

生に伝えました。

スタッフと大学院生チューターによる学習サポートは、2012年度利用者を200人以上も上回り、盛況だったと言えるでしょう(写真1:学習サポートの様子から)。その理由としては、2年生以上の学生からの質問(学年をまたいでの継続利用)の増加や、例年よりも期末試験期間のチューター増員を強化したことが一因として挙げられます。加えて、学習サポート室内の自習スペースの拡大や、書籍類の充実、ディスプレイでの利用状況の表示などにより、利用を促しました。

例年同様に、レポートの書き方や学習法の要点をテーマとするスタディ・スキルセミナーを、学期毎に開催してきました。また、学部学生や大学院生を主な対象とし、プレゼンや論文作成をテーマとするスキルアップセミナーを附属図書館と合同で企画・開催しています。

2013年度からは、英語コミュニケーションと物理学初級ゼミという支援を新たに企画し、開催してきました。

英語コミュニケーションは留学生チューターを少人数で囲み、英会話の力を磨く場を提供するものです(写真2:英語コミュニケーション的一幕)。冒頭で紹介したSLAでの、同様な取り組みを参考にして企画され、一年を通して37回行いました。各回で「Self-Introduction」や「Confusing Idioms」

表1 2013年度 ASC利用状況(※新企画)

支援内容	延べ利用者数 (3/11時点)
学習サポート	2796人
進路・修学相談	530人
スタディ・スキルセミナー	154人
スキルアップセミナー	55人
英語コミュニケーション*	83人
物理学初級ゼミ*	215人

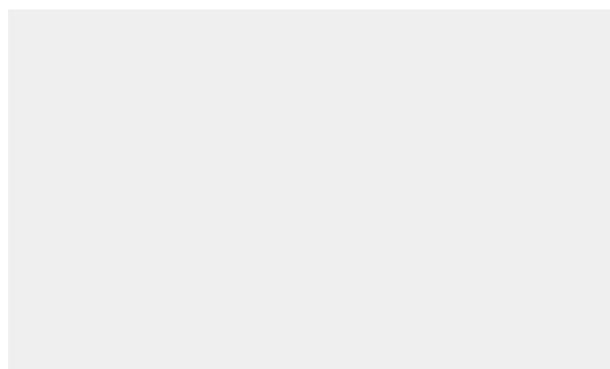


写真1:学習サポートの様子から
(左は物理学担当チューターの植木輝さん)

などのテーマが設定されており、参加者はその話題に沿って会話をします。参加学生のリピート率と満足度は高く、盛況だったと言えるでしょう。12月には新渡戸カレッジと協働し、Oxford大学の小西先生を迎えたスペシャルプログラムが開催されました。

物理学初級ゼミでは、全学教育科目の「物理学Ⅰ・Ⅱ」履修者を対象に、基礎事項・典型問題の解説を行いました。高校物理未履修者を始め、授業について行くのに難しさを感じる学生のニーズに応えるのが目的です。前期に全5回、後期に全7回分の内容を行いました。試行ということで物理学のみの開講でしたが、来年度以降は物理学以外の科目についても取り組む予定です。

2013年度は、新たな支援企画・活動が目白押しでした。2014年度もASCは学修支援に尽力して

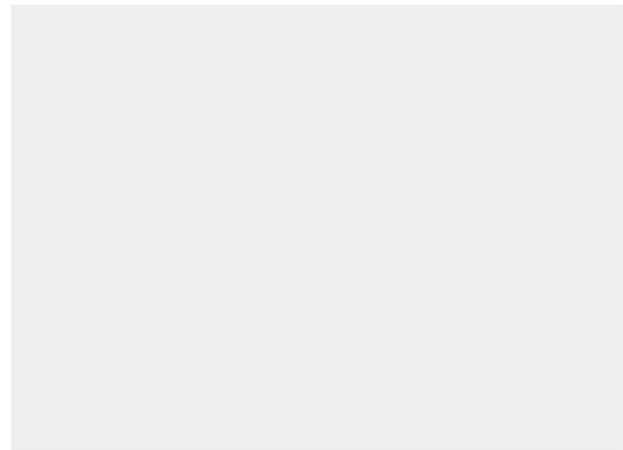


写真2：英語コミュニケーション的一幕
(中央は留学生チューターのチョドリ・タンビル・アハメッドさん)

いきますので、皆様のご協力を宜しくお願い致します。
(浅賀 圭祐, 多田 泰紘)

日誌 EVENTS, January-March

1月

- 9日(会議) 第3回総合教育学生専門委員会
- 10日(会議) 平成25年度第1回公開講座実施部会
- 15日(講習) IRシステムデータ登録講習会, IRデータ活用セミナー(東京)
- 18日~19日(試験) 大学入試センター試験
- 21日(講習) IRシステムデータ登録講習会, IRデータ活用セミナー(京都)
- 28日(会議) 平成25年度第2回高等教育開発研究専門委員会
- 29日(会議) 第9回教育改革室会議

2月

- 4日(会議) 平成25年度第2回公開講座実施部会
- 5日~6日(行事) 学部移行ガイダンス, 学部・学科等紹介
- 10日(会議) 入学者選抜委員会
- 10日(行事) AO入試(大学入試センター試験を課す)合格者発表
- 18日(シンポジウム)

大学間連携共同教育推進事業選定
取組全国シンポジウム

- 20日~26日(会議:持ち回り) 総合教育教務専門委員会及び総合教育学生専門委員会の合同専門委員会
- 21日(会議) 第5回全学教育専門委員会
- 24日(会議) 平成25年度第2回生涯学習計画研究専門委員会
- 25日~26日(試験) 一般入試(前期日程)
- 27日(会議) 第10回教育改革室会議
- 28日(会議) 平成25年度第5回高等教育推進機構学務委員会
- 28日(会議) 第3回総合教育移行専門委員会
- 28日(会議) 大学間連携共同教育推進事業 平成25年度第1回教学評価体制開発評価委員会(甲南大学ネットワークキャンパス東京)
- (会議) 大学間連携共同教育推進事業 平成25年度第2回卒業生調査研究委員会(関西学院大学 東京丸の内キャンパス)

3月

- 3日 (会議) 第4回総合教育学生専門委員会
- 4日 (会議: 持ち回り) 第3回総合教育教務専門委員会
- 4日 (会議) クラス担任幹事会
- 5日 (会議) 入学者選抜委員会
- 6日 (会議) 第72回教務委員会
- 7日 (行事) 一般入試(前期日程) 合格者発表,
私費外国人留学生入試合格者発表
- 12日 (試験) 一般入試(後期日程)
- 13日 (談話) 第1回遠友学舎炉辺談話
- 18日 (会議) クラス担任等連絡会
- 19日 (会議: 持ち回り) 第4回総合教育教務専門委員会
- 20日 (会議) 第4回総合教育移行専門委員会
(会議) 平成25年度第6回高等教育推進機構学務委員会
(会議) 入学者選抜委員会
(行事) 一般入試(後期日程) 合格者発表
- 20日 (談話) 第2回遠友学舎炉辺談話
- 25日 (行事) 学位記授与式(札幌キャンパス)
- 26日 (行事) 学位記授与式(函館キャンパス)
- 27日 (会議) 第11回教育改革室会議
- 27日 (談話) 第3回遠友学舎炉辺談話
- 31日 (会議: 持ち回り) 第5回総合教育教務専門委員会

行事予定 SCHEDULE, April-June

◆4月

- 1(火) ~ 4(金) 新入生定期健康診断
- 7(月) 新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス(学部・学科等移行ガイダンス, 学部ガイダンス)
- 8(火) 入学式
- 9(水) 履修調整・登録に関するガイダンス及び教育情報システム(ELMS)利用に関するガイダンス
- 10(木) 第1学期授業開始日
- 10(木) ~ 16(水) 抽選科目の申込期間(Web入力)
- 18(金) 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
- 21(月) ~ 25(金) 平成18~26年度入学者履修届 Web入力

- 21(月), 22(火) 平成17年度以前入学者履修届受付

◆5月

- 19(月) 6講時授業実施開始

◆6月

- 5(木) 開学記念行事日(休講)
- 5(木) ~ 8(日) 大学祭[5(木), 6(金)は休講]
- 11(水) ~ 13(金) 履修登録した科目の取消し受付(Web)
- 14(土) TOEFL-ITP試験(英語II)
- 26(木) 6講時授業実施終了

ニュースレター 2014, No.98 目次

〈巻頭言〉 高等教育推進機構 3 研究部門を統合

— 流動的な活動体制に —

細川 敏幸 1

学生と学生とが真に「出会う」ことができる場所へ

— 北大ピア・サポート 2013 年度の活動 —

鎗水 孝太 4

学務委員会報告 5

2014 (平成 26) 年度 全学教育部・総合教育部

行事予定表 7

平成 25/24 年度 (第 1 学期) 全学教育科目履修者

数対比表 8

平成 25/24 年度 (第 2 学期) 全学教育科目履修者

数対比表 9

北海道大学卒業生調査 2013 を実施しました

..... 10

初心者向け教員用 ELMS 操作マニュアルを発行

..... 11.

スポーツトレーニングセンターの施設利用が再開

されました 14

2013 年度 CoSTEP の教育活動をふりかえって

～トランスサイエンス実習の活動を中心に～

..... 15

2013 年度 アカデミック・サポートセンター

(ASC) 活動報告 17

日誌 18

行事予定 19

目次・編集後記 20

編集後記

札幌も雪解けが進み、自転車の季節がやってきました。何かと便利な自転車ですが、法律上では軽車両に当たります。事故を起こして多額の賠償金支払いを命じられるケースも増えているそうです。昨年 12 月には道路交通法が改正され、路側帯は左側のみ通行可となりました。冬には乗らなかったという方も、十分気をつけて自転車を楽しみましょう。 (眼)

ニュースレター (旧「センターニュース」)

(北海道大学高等教育推進機構広報誌)

通算 第 98 号

発行日： 2014 年 4 月 18 日
 発行元： 北海道大学高等教育推進機構
 (旧高等教育機能開発総合センター)
 〒 060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目
 電話 (011) 706-7520, FAX (011) 706-7854
 編集委員：◎細川敏幸・山田邦雅・竹山幸作・木村純
 亀野淳・三上直之・瀧澤一騎・鈴木誠
 池田文人・飯田直弘
 ご意見、お問い合わせは◎印の編集委員まで
 電話 (011) 706-7514, FAX (011) 706-7521
 インターネットホームページ：
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/index.html>